

令和 6 年度 県立土浦特別支援学校 自己評価表

No. 1

目指す学校像	◆児童生徒が生き生きと学びあえる学校		◆健康で安全安心に生活ができるきれいで整った学校	
	◆児童生徒、保護者、教職員が自信と誇りをもてる学校		◆家庭や地域に信頼され、共に歩む学校	
昨年度の成果と課題		重 点 項 目	重 点 目 標	達成状況
<成果> - 自立支援シートを作成し、個に応じた授業を展開することで、児童生徒の達成感や意欲を引き出すことができた。 - キャリア発達の視点での学習活動を計画し、主体的な学びや自己選択・自己決定を促す支援指導を行うことができた。 - 避難訓練（シェイクアウトを含む）を月1回行うことで、児童生徒・職員共に初期避難が、スムーズかつ確実にできるようになってきている。 - すべての学校間交流において、事前の出前授業を行い、理解啓発と交流活動を充実させることができた。 <課題> - I C T教育推進（GIGA スクール構想）のための研修を更に進める。 - 各教科指導において、障害の重度重複化・多様化に対応した授業体制や支援指導を提供する授業づくりを行う。 - いじめ事案のフローチャートの作成や相談体制について職員に分かりやすく周知していく - 服務規律の確保とコンプライアンス意識の更なる向上をめざし研修を継続的に取り組む。		一人一人の教育的ニーズに応じた魅力ある授業	① 適切な実態把握に基づく、主体的・対話的で深い学びのある授業づくりの推進 ② I C T教育推進を図る環境整備と職員研修の充実 ③ 「個別の指導計画」「個別の教育支援計画」による保護者との共通理解及び教育活動の充実 ④ 外部専門家の有効活用による障害の重度重複化、多様化への対応及び専門性の向上	B
		自立と社会参加を目指すキャリア教育の推進	⑤ ワークキャリア（働く）とライフキャリア（暮らす・楽しむ）の両視点からのキャリア教育の推進 ⑥ 体験的学習の工夫及び人や社会とつながる授業の充実 ⑦ 思いやりや豊かな心の育成を図る学級経営と児童生徒会活動の充実 ⑧ 生涯スポーツや文化・芸術活動への取り組み	B
		安全安心な学校づくりとリスクマネジメント強化	⑨ 人権の尊重と、いじめや体罰のない学校づくり ⑩ 防災安全教育、感染症対策、健康教育の推進及び安全安心な登下校の体制整備 ⑪ 諸問題の未然防止策の徹底（チェック体制の強化、事例分析や情報共有及び各種マニュアルの改善等） ⑫ 専門家や保護者と連携した安全・安心な給食と食育の推進	A
		地域に開かれた教育活動と専門性を生かしたセンター的機能の充実	⑬ 互いの学び合いを大切にした交流活動の充実及び地域人材等の活用方法の工夫 ⑭ 教育活動等の積極的な情報発信（保護者、地域、幼保小中高等） ⑮ 地域に対するセンター的機能の向上及び特別支援教育体制の強化への寄与 ⑯ 専門家や関係機関との連携を密にした校内支援体制の充実	A
		信頼される学校づくりと働き方改革の推進	⑰ サービス規律やコンプライアンス意識の向上を目指す研修等の充実と推進 ⑱ 明るくきれいで、風通しの良い学校を目指す取組（挨拶・整理整頓・清潔・清掃等、コミュニケーション） ⑲ P T A活動の充実と効率化、保護者との連携推進 ⑳ 業務の改善と効率化の推進と勤務時間の適正管理（教材教具や情報の共有化、その他校務の改善）	B

評価項目	具体的目標	具 体 的 方 策	重点目標との関連	評価	成果(○)、課題(●)及び次年度(学期)への改善策(◇)
学校経営 管理 教育計画	・新たな発想を創り出す教師集団の育成 ・明るくきれいで、校内外から親しまれる学校づくり ・地域の特別支援教育体制の強化	・現状をしっかりと抑えつつ、社会の変化に柔軟に対応できる学校運営を目指すため、教職員の新たな発想を集約し、可能なものから実現を図る。 ・児童生徒が自分たちの役割を意識し、意欲をもって取り組むことのできる清掃活動の実施、区域の割り振り、教職員の管理運営に関する役割分担の再確認を図る。 ・特別支援教育推進体制充実事業により、市内小中学校のコーディネーター等の育成に取り組む。	1－① 5－⑱ 4－⑮	B	○スポーツフェスタ等、新しいスタイルの学校行事を実施することができた。 ●新たな活動を実施するためには、さらなる行事等の精選と業務の効率化が求められる。 ○児童生徒が主体的に活動する場を設定することで、自ら行動しようとする児童生徒が増えつつある。 ●児童生徒の意欲を向上させ持続させるための工夫が必要 ◇主体性を引き出すための児童生徒のニーズの把握 ○事業と巡回相談等を通して、地域の特別支援教育体制の強化につなげることができた。
教職員の 育成及び 指導・監督	・評価の3観点を踏まえた授業づくり ・指導力の向上と授業改善への取り組み	・外部講師による評価の3観点に係る研修を実施する。 ・障害の重度重複化や多様化等、個に応じた指導の研修を実施する。 ・計画訪問及び就労支援充実事業を活用しながら、各部・学年での研修を充実させ、授業力の向上と授業改善を図る。	1－① 1－④ 2－⑤	B	○外部講師の指導助言や演習を通して、3観点での目標設定や学習内容の理解が深まった。 ◇3観点評価の研修実践を積み重ね、授業改善につなげていく。 ○強度行動障害等、個に応じたケース会議や研修を実施し、指導にあたることができた。 ●強度行動障害の対応は、担当者が中心であり、全職員での取り組みまでには至っていない。 ◇職員研修の実施と対応の実践の蓄積 ○各部・学年で児童生徒の実態把握に基づく、授業作りと授業改善に取り組んだ。 ●児童生徒の意欲的で主体的な授業づくりの推進 ◇児童生徒の思いや考えを引き出し、主体的な活動や対話をとおしての深い学びを更に進めていく。
対外活動	・コミュニティ・スクールに向け、先進校視察や地域資源の発掘、および活用を進める。	・児童生徒会を活用し、子供たちの考えやニーズをくみ取り、今後の学校の方向性に生かす。 ・共通した目標をもって活動できるコミュニティ・スクール運営を目指し、地域人材・資源の活用方法を話し合い、実践する。	2－⑦ 4－⑬ 2－⑥ 5－⑲	B	○児童生徒会を活用してアンケートを実施し、児童生徒の思いや考えを把握することができた。 ○プレコミュニティ・スクール協議会を開催し、委員候補者と本校の地域学校協働活動における課題を共有し、次年度のビジョンを作ることができた。 ●継続的な活動を視野に入れたコミュニティ・スクールの運営 ◇学校行事や授業参観を活用しながら、委員に学校の現状を把握してもらい、熟議を重ねることで、地域資源や人材の活用を図っていく。

コンプライアンス確保	・ 服務規律の確保とコンプライアンス遵守意識の更なる向上に向け、研修を行う。	・ 管理職による研修と学年・部中心のコンプライアンス研修会を相互に実施することで、より効果的な展開を図る。 ・ Teams や共有フォルダを活用して、不祥事報道等を職員に随時周知するとともに職員会議等で取り上げ、服務規律の確保の意識を保つ。 ・ 諸研修を通して人権尊重の意識を常に持ち続ける体制整備を図る。	5－⑰ 3－⑨	A	○年 13 回のコンプライアンス研修を実施し、職員の服務規律の確保とコンプライアンス意識の向上に努めることができた。 ● 職員のコンプライアンス意識の世代間格差の是正 ◇職員間でお互いに、服務規律の確保に努め、個々の当事者意識が向上するよう研修内容や研修体制等の工夫を図っていく。
働き方改革	・ 業務改革と効率化の推進 ・ 時間外勤務時間の削減	・ 学年・学部・係など小集団での取り組みを職員全体に紹介し、働き方改革に向けた取り組みやアイデアを学校全体に広げていく。 ・ 勤怠管理システムを活用して、教職員の勤務状況を把握し、個々の働き方の特性や現状を見極めて、適切に助言する。	5－⑳	B	○職員会議において、各学年が取り組んでいる業務効率化アイデアの紹介を行うことで、教職員の意識改革を図り、働き方について考える機会が増えた。 ● 業務効率化アイデアの共有はされたものの、学校全体の業務改善までには至っていない。 ◇アイデアの汎化と有効活用 ○早出遅出を活用しながら、個に応じた働き方について検討する機会を与えたり、助言したりすることで、時間外勤務時間の削減に取り組んだ。
I C T 活用	・ I C T 機器を用いた指導の充実 ・ 業務の効率化を目指す I C T 機器の利活用 ・ 安定した I C T 機器の運用	・ 授業改善の取り組みや先進的な授業での活用の紹介等を通して、より効果的な指導方法の導入を図る。 ・ 校務支援システムの活用を通して、より使いやすいシステムの構築に向けた課題と改善策をまとめ、学校間や関係部署との連携を図って、改善につなげる。 ・ 予算委員会で話し合いをもち、長期的な視点を含めた機器の運用方法について検討し、予算の割り振りを行う。	1－② 5－㉑	B	○動画を活用した研修（fingerboard の教材作り、教育アプリの使い方、情報セキュリティ研修等）を取り入れることで、職員が都合の良い時間や場所で研修できる環境を整えた。 ○ I C T 機器を用いた指導の充実につなげることができた。 ○校務支援システムの出席簿の令和 7 年度より活用に向けて周知した。 ● 業務や児童生徒の実態に応じた I C T 活用のニーズが多岐にわたっている。 ◇ I C T 活用のニーズを整理し、研修内容を精選して研修計画を立てていく。

※評価基準： A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない